

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890400112		
法人名	株式会社 しもふさの郷		
事業所名	グループホーム 菜の花	ユニット名(菜の花A)
所在地	茨城県古河市上大野2354番地1		
自己評価作成日	令和 元 年 5 月 24 日	評価結果市町村受理日	令和元年 9月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890400112-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和元年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法の基本理念である「高齢者の尊厳を支えるケアの確立」を目標に、認知症高齢者の心身の状況を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行っている。また、他の施設との連携や家族会の開催、地域のイベントに参加するなど、外部との交流を積極的に計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に協力医療機関や同一法人の通所介護事業所、短期生活介護、居宅介護支援事業所があり24時間の医療連携を図り、利用者、家族等が安心して生活できるように支援している。
 利用者の楽しみにしている入浴は、各自希望の時間帯を考慮して、入浴中は次の利用者を脱衣所に入れないでのんびりと入浴してもらっている。
 利用者の体調にも配慮しながら、今後ボランティア受け入れや外出頻度を増やしていくことも検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム菜の花の基本理念を職員の名札の裏に入れ携帯し、理念を共有している。また、基本理念を事業所内の見やすい場所に掲示し、外部にも周知している。	法人理念を基にした、事業所独自の理念を作成している。朝礼時や夕礼時、職員会議時に管理者が話しをしたり、事業所内玄関に掲示する他、職員の名札の裏に入れて携帯することで共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との交流を深めるため、初詣や花見などの外出ツアー、近隣へのお散歩へ積極的に出かけている。	自治会に加入している。散歩に出た時に挨拶を交わしたり、初詣や花見で外出時交流を深めるようにしている。今後、プロの歌手や利用者の知り合いの民謡をされている方がボランティアとして来訪する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体を通じて、施設行事等参加者や利用者家族に対し、認知症への理解や支援方法を日常的に教示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況、活動状況等の近況報告を行い、会議において出た意見や要望を施設サービスに反映するよう努めている。市職員、利用者家族、区長、民生委員の地域住民代表にご出席いただいている。また、今年度より他施設の職員も参加していただき、情報交換も密にしている。	家族等の代表や市職員、民生委員等が参加して開催しているが、年6回開催するまでに至っていない。会議では、事業所からの報告のほか、課題について話し合い、意見をもらっている。	年6回の運営推進会議を開催し、運営に反映する体制が整うことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には必ず市職員にご出席いただき、また開設者及び、管理者は施設の活動状況を随時報告している。また、管理者は市主催の会議に出席し情報交換に務めている。	運営推進会議の際、施設長や管理者は、事業所の活動状況を報告している。また、市役所にも介護保険更新申請等で訪れた際には空き状況なども報告している。古河市グループホーム連絡会に管理者や職員が参加し、市職員や他事業所職員と情報交換し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止未実施減算が強化されたことで、身体拘束を必要としない状態をつくりだすということを管理者・職員で議論し、身体拘束をしない体制作り及び実施に取り組んでいる。また、会社全体で身体拘束等廃止委員会を設置したり、職員研修も実施している。	「身体拘束廃止委員会」を設置し、研修会を年4回開催している。法人全体で勉強会を行い、職員の意識が向上することで、より良い支援に繋げている。マニュアルは、休憩室の棚に保管されており、いつでも閲覧することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のため、入浴・清拭・着替え等、目視で確認するようにし、随時責任者へ報告する。また施設内での虐待防止は、毎日の朝礼時に利用者の対応について職員同士で話し合い、虐待が起きないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を必要とする利用者がある場合には、家族等の関係者と協議を進め、支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者及び家族、関係者を変えパンフレットや重要事項説明書に基づき、丁寧な説明をしている。また、疑問点等に対しては、納得いただけるよう、わかりやすい説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱の設置を図るなど、市、利用者、家族から意見や要望が出せる場を設け、意見等が出た際には、些細なことでも出来る限り、運営に反映するよう努めている。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。苦情相談受付窓口を玄関に掲示している。面会時等に職員から家族等に話しかけて意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常日頃から職員に積極的に声をかけ、コミュニケーションを図るようにしている。また、意見交換を図る場と時間を設け、職員から出た意見は尊重し、事業運営に活かすよう努めている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、随時意見や要望を聴くようにしている。研修委員会を設置して、職員のキャリアアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者は、必要に応じ職員の面談を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、職員は年1回、夜勤者には、年2回の健康診断を実施するなど、職員の健康管理にも注意を払っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社では、職員全体の技術・知識の向上を目指し、研修会や勉強会を企画運営する「研修委員会」を設置し、職員のスキルアップに努めている。また、資格更新時には、研修費を会社が負担するなど、金銭面でのバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所の職員で構成する連絡会に管理者、職員が出席し意見交換を図り交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、生活環境の変化により、心身状態が不安定のため、信頼関係構築を最優先して行っている。利用者の不安なことや要求等を傾聴し、コミュニケーションを図ることを徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や契約時から、利用者の心身状況や要望等を家族から聞き取り、それに合ったケアに努める。また、ご家族との連絡を密にし信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族等から利用者の不安なことなどの心理状況、暴言などの行動状況を聞き取り、また利用者本人はどのような支援を必要としているのか把握し、職員が共通認識をもってその人にあったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思と人格を尊重し、その人の立場に立ったサービスを提供するとともに、利用者と職員が一体となって共同生活の場の環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族は大切な存在であるので、家族との面会や外出の機会などふれあいの場を提供している。また、家族交流会を定期的に行い、本人を支える環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が途切れないよう、気候の良い時期や利用者の体調を考慮しながら、外出の機会を設け支援に努めている。また、入居者の友人が施設に面会に来ることがある。	家族等や利用者、友人、親族から面会時に話を聞いて、馴染みの場所や人の把握に努め、日誌に記録し、職員間で情報共有をしている。これまでの関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での利用者同士の関わりは、最も大切なことであり、良好な関係を構築するための方法としてカラオケやゲームなどのレクリエーションや、職員も含めた共同生活する者同士でのコミュニケーションを大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、他の施設へ入居されることがあっても、必要に応じて支援できるよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等の希望や意向を伺い、希望・意向により近づいた生活が送れるよう、計画作成担当者がケアプランを作成し、支援する。	入居時の聴き取りや生活歴から、また日々の関わりの中での何気ない会話や仕草等から把握し、連絡帳や個人記録、職員会議や朝礼・夕礼時に共有しているほか、利用者の話を傾聴することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの今までの習慣やリズム等の暮らし方、また本人・家族や関係者から今までの生活経過を伺い、他施設などの利用がある場合も情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本人のケアプランに基づき、その人の心身の状態に合ったケアを職員が共通認識を持って対応するよう機会あるごとに指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員また関係者で「サービス担当者会議」を定期的開催し、その都度利用者に向けたケアプランの作成に努め、サービスに反映している。また、医療関係者とも連携し適宜ケアプランの見直しを図っている。	家族等や利用者の意向を基にして、医師、看護師、職員には事前に意見を聞き、計画を作成している。1～2ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っているが、利用者の状態をみて、必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子や変化などを個別に記録し、申し送り等で職員に伝達し、情報共有を図り、利用者本位のサービスが継続して行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社では、グループホームに併設して、ショートステイ、デイサービス、居宅支援事業所を有しており、またクリニックも併設しており、利用者の個別ニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプランの作成にあたっては、利用者が今まで培ってきた地域資源を把握するよう努め、安心して暮らしていけるよう支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当社関連の、しもふさクリニック(歯科)・みわの郷クリニック(内科・外科)により、定期的な健康診断の実施や、訪問診療など医療体制を整えている。また、事前にかかりつけの医療機関を把握し、緊急時の場合も臨機応変な対応をしている。	これまでのかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療のほか、かかりつけ医も訪問に来てくれる。受診の際は、看護師に看護サマリーと訪問診療医の紹介状を持参してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師や併設のクリニックの看護師と連携を図り、適切な医療が受けられるよう管理し、支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー及び医師との情報交換を密にし、利用者が入院中または、退院する場合には早急に入退院できる体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルを整備しており、職員全体で周知し、都度適切な対応をしている。また、重度化や終末期に備え、早い段階から家族に説明を行い、かかりつけ医・管理者・職員を含む関係者と協力し、急変時に迅速な対応ができるよう支援に努めている。	看取りを行う事業所であり、重度化や看取りに関する同意書がある。看取りを行う場合は、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。看護師が講師となり、毎年内部研修を行い、重度化や看取りについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の対応マニュアルが整備されている。定期的に職員に周知し、緊急時に混乱が生じないように教育している。併設施設の玄関先にAEDが備え付けられており、市が主催するAEDの研修会に職員が参加するよう促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、利用者の安全確保を最優先した避難方法を徹底している。また、計画的な防災訓練と整備点検を行い、夜間を想定した訓練の実施も予定している。	避難訓練が年2回行われていない。消防署立会による避難訓練を1回、法人内の事業所と合同で実施しているが、夜間想定や反省会については未実施である。	年2回に避難訓練の開催、反省会の開催、記録、近隣住民の参加、呼びかけ、備蓄品が整い利用者が安全に避難できる体制が整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを損なわないよう、日々のコミュニケーションの中で、言葉遣いや対応に気をつけている。一人ひとりにあった接し方で支援するよう努めている。	利用者の誇りを損なわないよう言葉遣いに配慮している。人権尊重や守秘義務について規程等を定めているが、研修を行うまでには至っていない。また、肖像権を含む個人情報に関する同意書が得られていない。	人権尊重や守秘義務の定期的な研修の開催により職員の理解を深め、個人情報に関する同意書を作成し、利用者、家族等に同意を得て情報を共有しケアに活かす事を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から、欲しいものやしたいことの要望はその都度対応している。また、買い物ツアーなどで出かけたときは、本人に支払いをさせ介護者が横で見守るといった自己決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の気分を損なわないよう、レクリエーションなどの施設行事があっても、本人の意思を尊重し、参加の意思がない場合、居室にて過ごされることを優先するなどの対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人に合わせた、身だしなみやおしゃれができるよう、希望や要望を聞き支援している。また、理美容の受付も毎月行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、利用者の状態・能力を考慮し、利用者本人でしていただいたり、職員が支援するなどして対応している。昼食に関しては、職員と一緒に食事をし、声かけしながら、楽しく食事をするよう心がけている。	朝食・夕食は業者によるお弁当が届き、昼食は法人の管理栄養士による献立と調理で提供されている。利用者はテーブル拭きなどできることを手伝っている。行事食や手作りおやつなどで食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、本人が嫌いなものでも食べてもらえるよう常に声かけを行っている。夏場の水分摂取には特に注意し、夜間でも一人ひとりにあった水分補給を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れができない方は、職員が行っている。自歯の方は、職員の介助で歯磨きを実施している。また、しもふさクリニック(歯科)の歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の排泄パターンを理解し、適時トイレ誘導を行っている。適切な排泄介助やオムツ外し、自立して排泄できる利用者への見守り等で排泄支援を行っている。	日中はトイレでの排泄支援をすることで紙オムツからリハビリパンツに変更になり、現在布パンツに移行中の利用者がある。夜間紙オムツの利用者も職員の介助で、可能な場合は日中リハビリパンツで排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分摂取量及び排泄回数を記録にとり、常に注意を払っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者本人の希望の時間帯や入浴の仕方、体調などを考慮し入浴を楽しめるよう支援している。なお、入居者全ての方が一人で入浴し、終わるまで次の人を脱衣場に入れられない配慮をしている。	入浴中は、プライバシーに配慮して、次の利用者は脱衣所に入れないように配慮している。機械浴も隣接施設で利用可能となっている。状況によって足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身状態も一人ひとり違っているため、安静の必要性も当然違って来るので、個々に対応している。また、就寝時間も日課表の時間内に希望される時間帯にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、管理者が、その使用方法、取り違えなどの誤使用を防止するなどの方策など、職員に常に周知している。特に誤薬防止については、利用者への声かけなど、本人確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、飼育している動物や植物の世話などの役割や、輪投げやボーリングのゲームで競いあったり、庭で談笑するなど、楽しみながら普段の生活と変わらない日々を送っていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物ツアーや外食ツアー、天気の良い日のお散歩やお花見鑑賞など、利用者が戸外へ出かけられるよう定期的に外出機会を設け支援している。	普段は散歩での気分転換を図るほか、初詣や花見、外食ツアーに出かけている。職員数の関係で外出が難しい時にも、室内での気分転換を考えて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーに出かけたときは、家族から預かっているお金であることを伝え、支払いはなるべく本人に行わせ、金銭感覚を忘れないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話する場合には、ホール内にある電話で本人が直接掛けるよう支援している。また、手紙を出す利用者は、現在のところおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内で季節ごとの手作りカレンダーを職員・利用者で共同作成し、廊下やホールに掲示している。また、施設内に設けてある花壇の水やりや菜園で季節ごとの野菜や根菜を育て収穫し、季節野菜を使った料理を作り一緒に食べて楽しんでもらっている。	玄関先に職員と利用者が季節の花を植えたり、水遣りをしている。玄関にソファを置いて靴の着脱しやすいようにしている。居間兼食堂には、利用者と職員で作成した手作りカレンダーを掲示し、季節感が感じられるようになっている。廊下は広く、車いすでも楽にすれ違えるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では皆でテレビ鑑賞をしたり、合唱、輪投げなどのレクリエーションを楽しめ、お一人で過ごしたり休みたいときは、一人で居室にて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が利用になるお部屋へは、利用者本人の快適性を最優先し、家族・本人と相談のうえ、自由に持ち込んでいただいている。できる限り、自宅での生活パターンに近づけるよう支援に努めている。	居室にはエアコンやベッド、洗面台などが設置されている。利用者はそれぞれ、椅子や整理ダンス、仏壇やぬいぐるみなど、馴染みのものを持ち込んで居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が「できること」を見出すため、利用者の日常生活をよく観察し、生きがいのある生活が継続できるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム 菜の花

作成日 令和元年 9月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年6回の運営推進会議を開催し、運営に反映する体制が整うことを期待する。	2ヶ月に1回又年6回開催できるように年次計画を立て実践するように努める。	令和元年度より奇数月に開催している。また、防災訓練や感謝祭に合わせ運営推進会議を開催する。	12ヶ月
2	35	年2回に避難訓練の開催、反省会の開催、記録、近隣住民の参加、呼びかけ、備蓄品が整い利用者が安全に避難できる体制が整うことを期待する。	避難訓練は、消防署立会いの総合訓練と夜間想定自主訓練を実施する。備蓄品を整備する。	①当社の防災委員会で訓練の検証を行ない記録を残し、次回開催時に活かすよう努める。②次回開催時地元消防団に呼びかけをする。③非常災害対策計画を作成中であり、そのなかで備蓄品を整備する。	12ヶ月
3	36	人権尊重や守秘義務の定期的な研修の開催により職員の理解を深め、個人情報に関する同意書を作成し、利用者、家族等に同意を得て情報を共有しケアに活かす事を期待する。	社内研修に個人情報に関する研修を取り入れる。個人情報の利用目的及び同意書を改定する。	年2回実施している身体拘束等廃止委員会の研修に、人権尊重に関する研修を取り入れる。個人情報の利用目的及び同意書に肖像権に関する項目を追加し、同意を得る。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。